2023

新クトゥルフ神話TRPG
シナリオコンテスト2023　大賞

たてやまはんごんたん
立山反魂譚

時は1918年、富山。米騒動を取材していた探索者たちは立山連峰の彼方に恐るべき影を目撃する。

千草
イラスト：黒瀬仁

概要

1918年7月、新聞記者（もしくはその協力者）である探索者は、自社の編集長から富山県での特派員としての仕事を受ける。内容は「富山で最近起こった米の売り渡しに関する抗議運動について現地取材をすること」というものだ。探索者たちは富山に向かい、現地担当者の鷹野雄一と出会う。しかしその後すぐ、鷹野と連絡が取れなくなる。時を同じくして探索者は港で不可解な蜃気楼を目撃することとなり、富山をむしばむ邪神信仰に巻き込まれる。探索を進め情報を集めると浮かび上がるのは、霊山立山に招来された神格サイサロスとそのカルトの怪しい活動だ。一般企業の皮をかぶったカルトはサイサロスの力と信仰を揺るぎないものとするべく、サイサロスの魔力を込めた物品や米を流通させている。カルトを止め、サイサロスを退ける鍵となるのは「立山信仰」と「反魂丹」だ。探索者たちの知恵と選択が、生死を分けることになるだろう。

舞台は1918年7月の富山県。探索者は、米騒動にまつわる取材の最中、立山連峰に邪神の影を見ることになる。富山県民だけでなく探索者をも巻き込む存在に対処するために、信仰をかき集めて信仰に立ち向かえ！

当時の富山県、立山のマップは11ページにある。

Introduction
1. はじめに

このシナリオは“新クトゥルフ神話TRPG ルールブック”（以下“ルールブック”）に対応しており、探索者2〜4人向けにデザインされている。プレイ時間は探索者の作成を含まずに3〜4時間程度だろう。

このシナリオは富山県の各所で情報収集を行なうことを想定しているため、キーパーは探索者に積極的な行動を促すとよい。避けられない戦闘があるが、武力のみに頼っては解決できないシナリオである。

新聞記者の探索者が最低1人いることが望ましく、POWが極端に低い探索者は推奨しない。

そのほか、探索者に「すでに亡くなっている大切な人物」を設定するとよりシナリオを楽しめるだろう。

Keeper Information
2. キーパー向け情報

1918年初め、サイサロス（“新クトゥルフ神話TRPG マレウス・モンストロルム Vol. 2 神格編”113ページ）を信仰するカルトが富山県に入り込む。その目的は立山信仰を利用してサイサロスの信仰を広げることだ。立山信仰における立山権現はいわゆる山の神であり、仏教の定着と共に阿弥陀如来や不動明王としてまつられるなど、時代によってその姿は違う。

カルトのリーダー、西東尊はその懐の深さを利用しサイサロスを立山信仰に組み込もうとたくらみ、富山の中小企業、網谷商事を乗っ取った。そして生け贄を集め、立山の地獄谷でサイサロスの彫像をまつり、招来の儀を実行した。このことは網谷商事が開催した登山ツアーでガス地帯に迷い込んだための死亡事故と報道されている。

儀式は成功し、サイサロスは顕現した。サイサロスの影響は強く、山から平野へ吹き下ろす乾いた風（フェーン現象）には、サイサロスの霧が含まれてしまう。含まれる霧の濃度が高い時には、サイサロスは蜃気楼のような幻覚となって人々の目に映ることになる。

神の顕現を果たしたカルトは次に、信仰を効率よく広げるために動き出した。サイサロスに供え、その霧の魔力を込めた版画や紙風船、箸などを売薬のおまけとして人々に配るよう仕向けたのだ。

魔力のこもった品々を手元に置き続けると、しだいにサイサロスに魅入られ、自分が死ぬ幻覚に導かれて自死を遂げるか、立山から故人の呼び声を聞き、サイサロスの前に導かれて死

んでしまう。富山では不審な事故死や自殺が増えつつある。

さらに、カルトはより広範囲に影響を及ぼすため、網谷商事として売買している米に魔力を付与し始める。

しかし、富山で一般的に売られている「反魂丹」という薬を服用している人間は、その薬の由来に立山信仰における「生」が関係しているためにサイサロスの魔力が効きにくいことが判明した。そこで、網谷商事は米の売買で得た利益で反魂丹の原料である雄黄を買い占め、反魂丹の製造を止めた。

買い占められた雄黄は使い道もなく網谷商事の倉庫を圧迫し、やむなく水橋の米倉庫に保管された。シナリオ開始の1か月前、荷役の女性・鷹野美智子は水橋の米倉庫の異臭に気がつき、告発しようと同僚と共に騒ぎを起こした。その時、社員の一人が唱えた呪文により、サイサロスの幻覚に導かれ入水自殺をしてしまう。もともと娘の佳代と共に魔力のこもった版画を模写して遊んでいた美智子はサイサロスの影響を強く受けていたためだ。

美智子の夫で新聞記者の鷹野雄一は、妻の不可解な死を調べるうちに、網谷商事の怪しい動きに気がつき、その目的をより詳しく調査し始める。

また、時を同じくして、雄一の娘佳代は、母の死後、父が仕事に明け暮れる中、寂しさを紛らわすために母親とよく遊んだ版画の模写に没頭するようになる。その版画の中には網谷商事の作成したものが混じっており、佳代は強く影響を受けて半催眠状態となる。

そんな中、探索者たちは仕事の依頼を受けて富山を訪れる。取材の過程でサイサロスの霧に影響された探索者たちは、大切な故人の姿をとった死への誘惑を受けることになる。キーパーは「探索者たち自身の身を守るためにも事態の解決が必要だ」と強調してもよい。

探索者が直面する課題は立山・地獄谷にすでに顕現しているサイサロスを退け、カルトの目的をくじくことだ。

サイサロスを退けるためには《「永劫の死」の退散》の呪文か立山信仰の象徴の一つである倶利伽羅剣が必要である。反魂丹があればサイサロスの攻撃に対抗することもできる。探索者にはぜひ富山の信仰によってカルトの陰謀に立ち向かってほしい。

Investigator Information
3. プレイヤー向け情報

本シナリオの舞台である1918年の富山について、シナリオ進行に必要な情報はプレイ中に取得できるが、あらかじめ「立山信仰」「売薬」「立山曼荼羅」といったキーワードについて調べておくとより楽しめるだろう。

NPCs
4. 主なNPC

鷹野雄一

35歳男性。呉東日報の富山支部に勤める新聞記者。妻の鷹野美智子を1か月前に事故で亡くしている。米価の高騰について担当しているため探索者たち特派員と共に行動する。

網谷商事のことを、妻の事故及び異臭騒動両方の面から怪しんでおり、独自に調査している。網谷商事のたくらみのすべてを知っているわけではないが、地獄谷で何かが起きていることに気がついており、シナリオ開始日の夜に娘佳代の身に危険が及んでいることを悟り、焦って一人立山に向かい、途中で倒れてしまうことになる。

容姿の描写：日々の激務や妻の死後の心労のため、年の割に老けて見える。服の手入れがおろそかでシャツにしわが寄っている。

特徴：面倒見と人づきあいがよく、探索者たちに協力を惜しまない。

STR 65　CON 50　SIZ 60　DEX 60　INT 65
APP 70　POW 45　EDU 50　正気度 30　耐久力 11
DB：＋1D4　**ビルド：**1　**移動：**8　**MP：**9　**幸運：**65
近接戦闘（格闘）25%（12／5）、ダメージ　1D3+DB
回避　35%
技能：芸術／製作（写真術）70%、説得　50%、経理　40%、歴史　40%、伝承（立山信仰）40%

西東尊

52歳男性。網谷商事の社長であり、サイサロスのカルトのリーダー。

日露戦争出征時にとある民家で魔道書『往くものの儀式』（“新クトゥルフ神話TRPG マレウス・モンストロルム Vol. 2 神格編”114ページ）を手に入れる。当時のつらい現実とそれでも生に執着する苦しみから逃避するために、「サイサロスが二度と生の苦しみのない永劫の死を平等に与えてくれる」と信じ、傾倒していった。帰国後は儀式に必要な彫像を入手し、儀式の実施場所として富山を選び侵入した。

1918年の頭に家族経営だった網谷商事を乗っ取った張本人であり、すべての指示は西東から下されている。

容姿の描写：左腕の動きがぎこちないが、これは従軍時のけがによるものである。

特徴：基本的に冷静沈着だが、サイサロスの狂信者であるため、「死」やサイサロスが顕現している「地獄谷」の話題に対

して過剰に興奮した反応を示す。

STR 70　CON 55　SIZ 55　DEX 35　INT 70
APP 40　POW 55　EDU 45　正気度 16　耐久力 11
DB：+1D4 **ビルド：**1 **移動：**6 **MP：**11 **幸運：**60
近接戦闘（格闘）50%（25／10）、ダメージ　1D3+DB
回避　30%
技能：言いくるめ　50%、オカルト　40%、経理　40%、心理学　60%、法律　30%

Get Starting
5. 導入

1918年7月頭、新聞記者である探索者は上司に呼び出され、特派員としての仕事を命じられる。仕事内容は「富山県で市民による米の売り渡しに関する抗議運動（以下、本文中では「米騒動」とする）が発生しているらしい。今後の影響を考えて富山支部にしばらく駐在して情報を共有してくれ」というものだ。

探索者たちは、最近の全国的な米価の高騰は実感している。そしてその理由がシベリア出兵による軍需を見込んだ商人たちの売り渋りであることも知っている。

仕事を受けた探索者は、社の経費で協力者を連れて行ってよいと言われる。ほかの探索者はここで合流するとよい。富山までは1日以上かかるが新潟経由で鉄道を使うことになる。

富山に到着する

富山市の鉄道駅に着いた探索者たちの目に飛び込むのは、三方に広がる山並みだ。

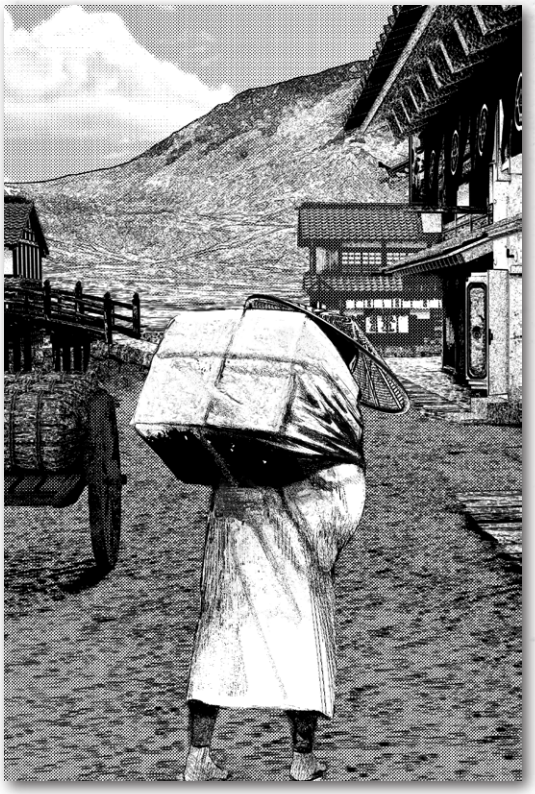
〈知識〉ロールか、ボーナス・ダイス1つを与えた〈歴史〉ロールに成功すると、東側にそびえたつ立山（たてやま）連峰はいわゆる霊山であり、古くから「浄土と地獄、つまりあの世が存在する」と言われていることを知っている。

そのほか、探索者たちにとって見慣れない風景は、売薬（薬売り）の存在だろう。街を歩けば、時折大きなカバーのかかったつづらや箱を背負って歩く物売り風の男を目にする。見ていれば、家や店の入り口で「反魂丹やけど在庫切れとって補充できんから六神丸（ろくじんがん）おまけしとくちゃ」「そんながけ」などという会話が聞こえる。

ここでの会話は雑談だが、反魂丹の不足について情報を出す描写として使用できる。

〈歴史〉または〈知識〉ロールに成功するか、地元の人間に尋ねれば、売薬についてより詳しくわかる。各家庭に薬を配置し、使った分だけあとで集金する手法（「先用後利」）で商売をしている薬売りで、組合や製薬会社に属している。その商売柄、市井のことに詳しい。

以上の現地情報は導入ではないにせよ、シナリオの序盤で出しておくのが好ましい。



Gotou Nippou
6. 呉東日報へ

まずは、探索者たちは現地の職場である新聞社のある富山市へ向かうことになるだろう。同じ部署の鷹野雄一が探索者たちを出迎えてくれる。鷹野からは以下のように現在の状況と方針が説明される。

- 1週間ほど前、水橋の港で米騒動があって取材に行ったところだ。すでに報道されているが、騒ぎはあまり大きくならずに収束した。
- 米倉庫の持ち主は「網谷商事」という商社で、今年の初めから急に米の売買で名前を聞くようになった。無茶な買い付けをしていると悪評が立っている。
- 実は1か月ほど前に、同じ網谷商事の水橋の港の倉庫で異臭騒ぎがあった。現場は混乱し死者が出てしまった。それが騒ぎの発起人であり自分の妻、美智子だ。
- 妻は群衆に押し流されて海に落ちて溺死したと報道されたが、倉庫の人間に詳しく聞いたところ、「女性が自分から飛び込んだ」という証言があった。
- 妻は正義感が強く、自殺などする人間ではない。自分は網谷商事が何か怪しいと感じて調査をしてきた。これは記者の勘にすぎないが、米騒動とも無関係ではないと思っている。

そして鷹野は、「明日には、米騒動に関する取材ということで、網谷商事に行くことになっている。特派員の探索者たちも関係があるので一緒に来てほしい」と頼み、翌日の待ち

合わせを取り付ける。

この日、探索者たちは「**9. 探索**」から1か所だけ自由に探索できることとしてよい。

なお、鷹野には別行動させること。彼は妻の墓に参るために芦峅寺に向かい、雄山神社で後述の『地獄谷歎異 抄・上』を入手して一度新聞社に戻って来る。

その夜、鷹野は実家で佳代の異変（「鷹野の実家」の項で起こる異変と同じものだ）を目にして、事態の解決を焦り、単身立山地獄谷を目指す。しかし、途中の「みくりが池」で倶利伽羅剣を入手したのちサイサロスの誘惑に対するPOWロールに失敗して気絶してしまい、「**10. 立山へ**」で探索者が発見するまで倒れたままだ。

Hallucination
7. 滑川の幻覚騒動

翌日、探索者たちは呉東日報の編集長にたたき起こされる。滑川の港の倉庫で騒ぎが起きているが、鷹野と連絡が取れないため、探索者たちだけでもすぐに向かってほしいと言われ、車で向かうことになる。

到着すると、確かに倉庫の前に人だかりができている。人々の怒声はまとまりがなく、何を言っているのかは聞き取りにくい。倉庫の扉の前には、人々を抑えようとしている洋装の男がいる。〈目星〉ロールに成功すれば、胸元に「開いた手のひらの中に山が描かれたマーク」と「網谷商事」という文字が刺繍されている。

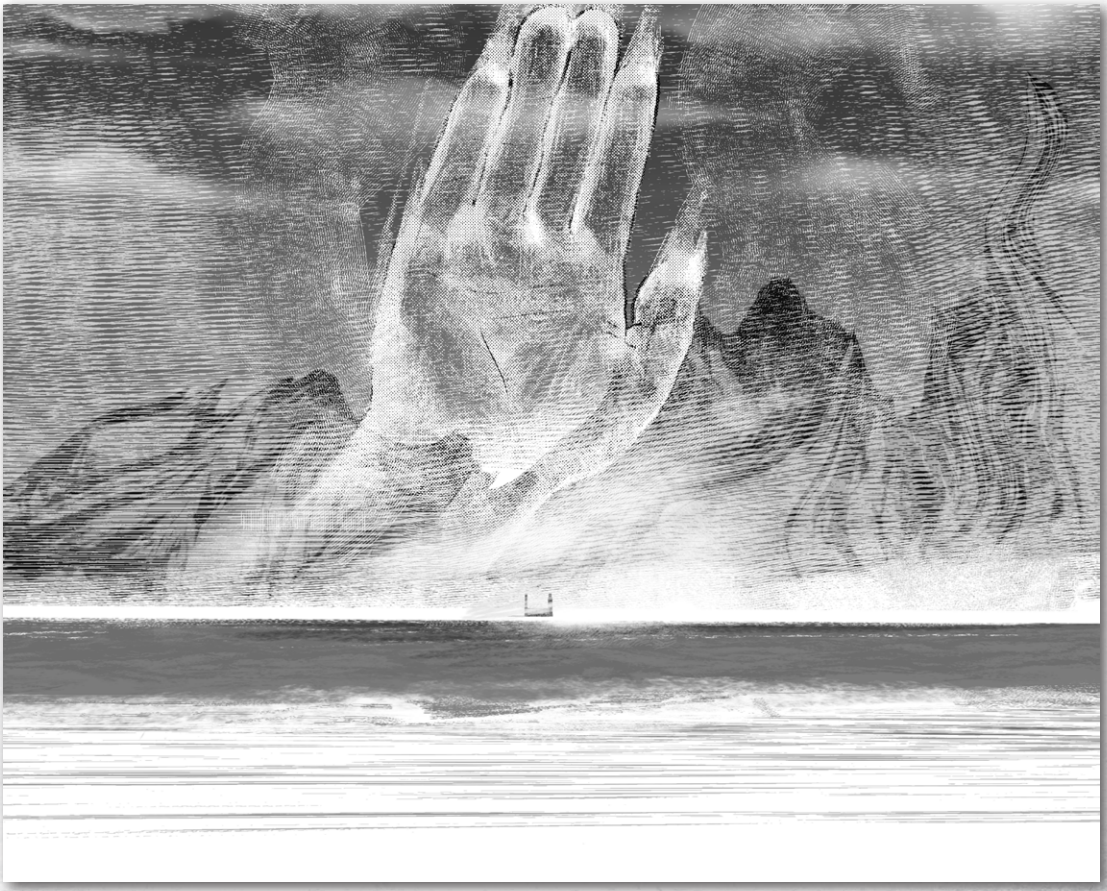
騒ぎはどんどん大きくなっていき、ついには倉庫の正面扉がゆっくりと開かれ始める。その時、急に生暖かい風が強く吹きつける。探索者は次の瞬間、群衆の声が静かになっていることに気がつく。周囲を見渡すと、群衆のうち半数ほどが、ふらふらと海のほうを凝視しながら歩いていっている。探索者が沖のほうを見るなら、以下の描写を適宜読み上げること。

海の向こうに、ゆがんではいるが景色が映っている。小さな赤い橋、そしてその奥に山と、谷のような構造物。人の形をした影のようなものがうごめき、その間にはまるであなたたちを手招きするかのように、巨大な白い手が揺らめいている。これは、蜃気楼か？

不気味な蜃気楼（そして神格の姿）を目にした探索者たちは1D3／1D10正気度ポイントを失う。

失敗した探索者は、サイサロスに魅入られ足を海のほうへ踏み出してしまう。ここで一時的狂気に陥った探索者は自殺衝動に駆られる。探索者は自ら海に入っていってしまう。

しかし、ほかにも同じような行動をとっている人間が大勢おり、速やかな救護活動が開始されているため、探索者の命に別状はない。



この幻覚は、地獄谷に顕現しているサイサロスの霧を含む空気が、フェーン現象により山から海に向かって吹き降ろしたことで発生した幻覚である。

探索者が〈自然〉ロールに成功すれば、フェーン現象であることがわかるが、それにしては風の湿度が高すぎることに違和感を覚える。

この後すぐに米倉庫の探索を行なう場合は「9. 探索」の「滑川の米倉庫」の項へ。

Temptation
8. サイサロスの誘惑

滑川の港でサイサロスの幻覚を見た探索者たちは、以降の探索中、サイサロスの誘惑を受ける恐れがある。

以下の行動をとった場合にPOWロールを行ない、失敗すると自殺衝動や高所マニア、水マニアなど命の危険を顧みない狂気を発症する。

■ 霧、霞（かすみ）、湯気が発生している場所にいる
■ 網谷商事が作った売薬のおまけを持ち歩く

キーパーは適宜このイベントにより探索者に危機感を与えるとよい。探索者自身ではなく、通行人やNPCが同様の挙動をするのを目撃させるだけでもよいだろう。

Research
9. 探索

「**7. 滑川の幻覚騒動**」ののち、探索者たちは自由に探索を行なうことができる。1日の探索回数は2〜3回を想定しているが、キーパーの裁量で決定すること。

呉東日報

呉東日報では、鷹野のデスクを詳しく調べることで、彼の独自調査の痕跡をたどることができる。

鷹野の残した資料

網谷商事についての調査資料がある。

今年の初めから社長が変わり、取扱商品や業務の幅が広がっている。最近は特に米に注力している。

そのほか、ここ数か月、薬の材料として使用する雄黄（硫化ヒ素）を積極的に仕入れているようだ。雄黄は反魂丹の材料でもあるが、最近不足して各家庭で困っていたはずだ。〈経理〉ロールに成功すると、富山における雄黄の流通ルートをほぼ押さえていること、そして米の取引で上がった利益を雄黄の買い占めに費やしていることもわかる。

また、1918年春に網谷商事が主催した登山行事で、地獄谷のガス地帯に迷い込み参加者が全員死亡する事故を起こしたという他社の新聞記事がある。この記事には鷹野の字で「集会場所？」と赤字のメモがつけられている。

立山信仰の変遷について、ある僧の嘆きがつづられている。

もともと立山権現は神道における山の神であったが、仏教が入ってくるとその姿は阿弥陀如来と不動明王尊としてまつられるなど、時代によって姿が変わることがあった。

廃仏毀釈により立山信仰も混乱してしまった。立山信仰の懐の深さは、転じて他宗教の暗い信仰のよりどころになりうるかもしれない。特に地獄谷は「死」の概念が強く渦巻く場所だが、人々の「死」に対する想像力を考えると最も危険な場所であると言える。

不動明王尊と阿弥陀如来への信仰体系を固めることが重要なのだ。

（立山反魂譚 プレイヤー資料1「『地獄谷歎異抄・上』要約」）

鷹野の鍵付きデスク

鍵がなければ、STRロールに成功すれば引き出しごと壊して開けることができる。

中には一冊の古書が入っている。古書のタイトルは『地獄谷歎異抄・上』、中には「芦峅中宮寺・蔵」と書かれた紙が挟まれている。内容の要約は上記のとおり（プレイヤー資料1「『地獄谷歎異抄・上』要約」）。

〈知識〉か〈歴史〉ロールに成功すれば、この文章は明治の廃仏毀釈直後に書かれたものであり、現在は仏教的行事も復活しつつあることを知っている。また、廃仏毀釈の際には寺院が神道様式に改称させられたということも知っている。どのような形であれ、探索者が調べれば芦峅中宮寺が現在の雄山神社であることがわかる。

鷹野の実家

鷹野の実家ではシナリオ上重要な情報が入手できるため、探索者が自発的に行かないようであれば、編集長から「実家に連絡を取ってみてはどうか」と促すとよい。

鷹野は立山町の一軒家で高齢の母親チヅと10歳の娘、佳代の3人で暮らしている。家族構成について聞くならば、仏壇を指し示し、1か月ほど前に雄一の妻美智子が事故死したことを教えてくれる。

ここでは、探索者たちはせっかくだからと食事を振る舞われる。白飯が出されるが、POWの一番低い探索者は、食後にめまいを感じる。この白米は網谷商事がサイサロスに供え、その魔力の一部を込めた米である。この家の米びつを見せてくれと頼めば、米びつの近くに積まれた俵には網谷商事のロゴマークが刻まれている。

佳代の異変

食事後などに、急に佳代の様子がおかしくなる。佳代は片付けようとしていた茶碗を取り落し、おぼつかない足取りで窓のほうへ向かうと、「お母さん……」と一言つぶやき、窓を

乗り越えて外に出て行こうとする。1階だがむやみに飛び降りればけがはまぬがれないだろう。

探索者かチヅがそれを止めれば、佳代はぐったりと崩れ落ち意識を失う。佳代は、うなされているように「永劫の死」「導きの手」などという言葉を発する。そこへチヅが戻って来て、黒い丸薬を水と共に佳代の口に押し込むと、佳代はせき込みながら意識を取り戻す。

この描写は、佳代がカルトの影響を受けていることと、その対処法を示唆するものだ。

意識を取り戻した佳代は「お母さんが呼ぶ声が聞こえて行こうとしたら、不動明王様が私の背中をたたいて帰してくれた」と話す。その言葉を聞くとチヅは「反魂丹のおかげじゃ。ありがたや」と仏壇を拝む。

チヅに詳しく話を聞けば、佳代にのませたのは反魂丹という薬であることがわかる。探索者が興味を示せばチヅが「反魂丹伝説」を教えてくれる（プレイヤー資料2「反魂丹伝説」参照）。

当時反魂丹は総合胃腸薬として扱われているが、チヅは霊薬としての側面を信じておりのませたのだと言う。また、探索者たちが富山に来た日の夜にも同じことがあり、雄一がひどく慌てていたと話す。

佳代に詳しく話を聞く

佳代に対し対人関係技能のロールに成功するか、母親の話を持ち出すと、「お母さんが死んでから、お父さんも忙しくなって、少し寂しいけどずっと絵を描いてるし平気だよ。置き薬のおまけの版画をまねしてるだけだけど」と打ち明ける。

佳代の部屋にははがき大の版画がいくつか飾られており、机の上には画材が綺麗に整頓されている。版画はほとんどが風景画だが、中に気になるものを見つける。それは山を背景として、巨大な白い手のひらの上に大勢の人間が乗って山を見ており、すぐ下の地面には真っ二つに折れた剣が置かれているという構図だ。

〈芸術／製作（絵画）〉か〈オカルト〉ロールに成功すれば、宗教画のような構図であることや、何らかの物語が描かれているとわかる。

〈歴史〉ロールに成功すれば、真っ二つに折れた剣が、不動明王尊が右手に持つ倶利伽羅剣として描かれていることがわかる。

また〈クトゥルフ神話〉ロールに成功すれば、現存の宗教に当てはまらないが、巨大な手が神として描かれていることがわかる。

版画の隅には、網谷商事のマークが描かれている。

版画を見た探索者は0／1正気度ポイントを失う。〈正気度〉ロールに失敗した探索者は、版画の中の手が乗っていた人々を振り落とし自分へ迫ってくる幻覚を見る。

富山（当時越中礪波）に住んでいたある男の母が大病を患った。男は何とかして癒そうと立山に登り、大権現不動明王尊と阿弥陀如来に祈願し続けた。

すると、熊の胆と硫黄を混ぜた霊薬の処方を授かることができた。男がそれを求めてから帰ると、母はすでにこと切れていた。せめて亡骸にでも霊薬を飲ませてやりたい、と、授けられた霊薬を口に注ぐと、不思議なことに母は目を開き、息を吹き返したという。

聞くところによると、「阿弥陀如来が『まだ来るには早い』と仰られ、不動明王尊が『早く帰れ』と背中をポンと打ったので息を吹き返した」というのである。

この由来にちなみ、霊薬は「反魂丹」と名付けられた。

（立山反魂譚 プレイヤー資料2「反魂丹伝説」）

鷹野の部屋

鷹野の部屋は物が少ない割に散らかっており、万年床になっている。布団の上には一冊の手帳と小さな鍵が転がっている。手帳はきのう会った時に持っていたもので、鍵は会社の机の引き出しのものだ。

手帳の中身は、鷹野の独自調査のうち、信仰に関わる気づきが記されている。しかし彼自身半信半疑であったため、探索者に直接話すことはなかった。

「立山に行かなければならない。信仰が危ない。しかしきっと加護が必要だ」

また、手帳の最後のページには、走り書きがある。

「美智子は帰ってこないが、きっとどこかで次の生を受けていると信じるだけだ。今の私がやるべきは娘を守ることだ」

滑川の米倉庫

倉庫の様子を見る

米倉庫の正面は扉が固く閉ざされている。「7. 滑川の幻覚騒動」から直接訪れても、後日やって来ても、探索者は幻覚騒動の際に人々を抑えていた社員が倉庫の裏手に回っていくのを目撃する。追いかけることは容易であり、男は倉庫の裏手にある事務作業用の小屋に入っていき電話をかけているのが窓越しに見える。

〈聞き耳〉のロールに成功するかうまく小屋に近づけば、男が発している言葉が聞こえる。

「騒ぎですか、ええ。たぶん山からの霧が……」

「今から地獄谷へですか。はい、ええ、10俵ですね」

電話を切った男は小屋から出てきて倉庫に続く通用口から中に入っていく。

この男は、朝の出来事についての報告と、これから地獄谷に運び込みサイサロスに供える米の話を社長の西東と話している。

倉庫に忍び込む

男を追いかけて倉庫に向かっても、中には人の気配はない。男は倉庫の中の「門」を抜けて地獄谷へ向かったのだ。

こっそりと通用口からのぞくなら、男が何か言葉（網谷商事の社訓だ）を発すると壁が光りだし、そのまま米俵を積んだ台車ごと光の中へ消えていく姿を見せてもよい。これは倉庫に創造された門を活性化させ、門を通って地獄谷へ向かっ

ているのである。

探索者は通用口から容易に中に入り調べることができる。入ってすぐ、〈目星〉ロールに成功すると、かすかに硫黄の臭いが漂っており、よく見れば倉庫の隅に積み上げられた大量の包みが臭いの原因であることがわかる。

包みの山には「廃棄」と書かれた紙が貼りつけられている。包みは何重にもなっており、中身は黄色がかった結晶だ。硫黄の強い臭いが漂う。〈地質学〉もしくは〈薬学〉、イクストリームの〈知識〉ロールに成功すれば、これが雄黄であることがわかる。

また、倉庫には米俵の山もあるが、2種類に分けられているようだ。網谷商事のマークが入っているものと入っていないものだ。よく調べると網谷商事のマークが入っている米俵からはかすかに硫黄の臭いがする。

作業小屋

男がいた事務作業用の小屋には鍵が掛かっている。〈鍵開け〉か〈機械修理〉のロールに成功すれば開けられる。STRロールに成功すれば鍵を壊すことができる。

中には取引の書類があり、2種類の米が地獄谷に供えたものとそうでないものに分けられていることがわかる。

また、雄黄の取引について、わずかに県外に売っているものの、ほとんど在庫として抱えていることもわかる。

作業机には紙が1枚貼られており、「合言葉：社訓」と書かれている。これは倉庫の壁にある門の活性化に必要な合言葉だ。

売薬又は製薬会社

当時の富山は売薬の従事者が非常に多い。探索者が探せば売薬が歩いているのを容易に見つけられる。また、製薬会社を当たるなら、「広瀬堂」という大きな製薬会社があるだろう。

これらの場所で、倉庫で見つけた雄黄の実物を出すならば、鑑定してくれる。

広瀬堂・売薬の話

反魂丹について聞けば、「ここ最近雄黄が全然入らないせいで反魂丹の生産が低下している。仕入れ先に聞いて回ったがどこも手に入らないと言っていた」という話を聞ける。ここでは反魂丹の購入や、雄黄を渡して反魂丹を煎じてもらうことが可能だ。

また、売薬は顔が広く、事情通で話好きでもある。立山信仰に関することなど、キーパーは売薬を利用して必要な情報を出すとよい。

図書館

図書館では、〈図書館〉ロールに成功することで以下のことを調べることができる。

網谷商事の社史（要約）

50年程度の歴史がある中小企業で、1918年の頭に前任の網谷社長から西東社長に代わっている。

その時、社訓やロゴマークを変更している。社訓は「人々に手を差し伸べる企業に」、ロゴマークは「開いた手のひらの中に山が描かれたマーク」だ。

社長の白黒写真がある。ごく普通の中年男性だが、背後に何か彫像のようなものが映りこんでいる。

〈目星〉ロールに成功すれば、無秩序な粘土の塊のようなものから手足がいくつも生えている形であることがわかる。

〈クトゥルフ神話〉ロールに成功すると、既存のどの宗教にも当てはまらない信仰を表している、と感じる。

映り込んでいるのはサイサロスの彫像だ。シナリオ開始時には地獄谷にまつられているため社屋には複製品しかない。

立山信仰について（要約）

古くから越中の立山は、山中に地獄、すなわち死者の霊魂が集まる場所がある山として知られていた。

そしてさらに、土着の霊山信仰と仏教的価値観が融合することで発達してきた立山信仰は、いわゆる「あの世」がすべて立山の中にあるとしている。

そういった信仰が網羅的に描かれた「立山曼荼羅」という宗教絵画がある（原本は雄山神社に保管されている）。

立山では、江戸時代には阿弥陀如来と不動明王尊をまつっており、立山曼荼羅にもその姿が描かれてきた。ただし、立山信仰の大本は立山権現、すなわち山の神であり、その時代の時々で人々が他宗教の神を当てはめて信仰していたとされている。

版画について

佳代の部屋で手に入れた版画に興味を持つ探索者がいれば、「真っ二つに折れた剣」は力の喪失を、「巨大な手」は救済が表されている、ということを調べられる。探索者がINTロールに成功すれば、「何らかの力が失われたため、人々が巨大な手による救済を受けることができる」という簡素な物語を想像できる。

網谷商事

ごく普通の古びた社屋だ。両脇を別の会社の社屋に挟まれているため、より小さく見える印象だ。鷹野が取材の約束を取り付けているため、新聞記者の探索者が取材として来るなどすれば、受付の人間がすぐに案内し、社長自ら対応してくれる。

社長の西東尊は探索者をにこやかに出迎える。雄黄の買い占めや米の取引についてははぐらかすが、探索者が〈心理学〉の対抗ロールに成功すれば隠し事をしていたりうそを言っていたりすることに気がつく。

また、西東はサイサロスによりもたらされる死を輪廻転生から外れた永劫の死であり、尊いものだととらえている。「死」というテーマを持ち出された西東は自身の信仰について思わず熱く語るだろう。

そして、帰りには、社の宣伝という名目で探索者たちに売薬のおまけとして作っている紙風船を渡す。紙風船は網谷商事のマークが入っており、「霧のかかった山を登る人々」の挿絵が描かれている。

なお、この紙風船にはサイサロスの魔力がこもっており、所持している探索者は、POWロールを要求される場面でペナルティー・ダイス1つが与えられる。

社長室

忍び込む、応対中に抜け出すなどして社長室を調べると、『往くものの儀式』という本を発見できる。

この魔道書には後述の《「永劫の死」の退散》（“ルールブック”246ページ「神格の招来呪文と退散呪文」を準用）、《門の創造》（“ルールブック”257ページ参照）などの呪文が記述されている。

また、門の活性化のために「門の前で網谷商事の社訓を唱え、1正気度ポイントを支払う」という手順が設定された記録を見つける。

新しい呪文：《「永劫の死」の退散》

コスト：6MPを支払うことで退散確率が5%、さらに新たに1MPを消費するごとに退散確率が5%増加する。

必要時間：1ラウンド＋参加人数

雄山神社祈願殿（旧芦峅中宮寺）

雄山神社では立山にあるという地獄についての話を聞くことができ、室堂平（むろどうだいら）の地図をくれる。

雄山神社の社人は立山曼荼羅を見せながら解説をしてくれる。「立山は古くからあの世があり、死者の魂が集まる世界と言われています。みくりが池は八寒地獄、血の池は女性が落ちる地獄に見立てられていますね。中でも特に地獄谷は火山性ガスが噴出しており、池が沸き立つまさに地獄を想像させる場所で、曼荼羅にもさまざまな責め苦を受ける罪人の姿が描かれます。実際の地獄谷は春に登山客が大勢亡くなる事故があってからは立ち入りが禁止されていますが。信仰的にも、現実的にも死を色濃く連想させる場所と言えるでしょう」

探索者が不動明王尊の名前を出すなどすれば、みくりが池に関する説話を教えてくれる（プレイヤー資料3「みくりが池の説話」）。

また、鷹野雄一について尋ねれば、『地獄谷歎異抄・上』を貸したことを証言し、『地獄谷歎異抄・下』を見せてくれる。下巻は、過去に起きたことを書き連ね、その対策を記載しているようだ。その中に、気になる言葉を見つける。（プレイヤー資料4『地獄谷歎異抄・下』参照）。

その昔、越前国の僧侶、良慶（りょうけい）が指導者の海弁（かいべん）に導かれて立山禅定登山（修行のための登山）を行なった。

途中、地獄谷の付近で寒の地獄を見た良慶は、大したことがないものだとあざけり、口に剣をくわえて池に飛び込むと向こう岸まで泳いでみせた。

海弁は良慶の傲慢（ごうまん）な行動に驚き、やめさせようと、加持祈祷（かじきとう）により不動明王が乗り移った形で海弁にこう語りかけた。

「今おまえが口にくわえていた剣は、実は不動明王の秘宝剣であり、池を泳いでも地獄に落ちなかったのは剣の徳のおかげである」と。

これを聞いた良慶は腹を立て、剣の徳をあざけり、それを投げ置いて再び池に飛び込んだが、三巡り目にしてついに地獄へ落ちてしまった。

そのため池は「みくりが池」と呼ばれるようになった。

（立山反魂譚 プレイヤー資料3「みくりが池の説話」）

布橋

雄山神社からほど近いところに、古びているがしっかりした木製の赤い橋がかかっているのが見える。これを見た探索者は、滑川の港で見た幻覚に映っていた橋と同じであることを思い出す。橋の向こう側（山側）は、少し霧が出ているようで、遠くまで見渡すことができない。

橋を渡り、山へ向かうのであれば、探索者たちは霧が急に濃くなり、視界が悪くなってくるのを感じる。探索者はPOWロールを行ない、失敗すれば以下のような幻覚を霧の中に見る。

私が調べるかぎりでも、江戸時代このような危機があったことがわかっている。

異国から渡ってきた人々によって立山の中で細々とつながれた信仰が、われわれの信仰と結びつき、異教の神が立山に顕現し人々に害をなしたのだ。

異教の神にお帰りいただくための言葉は彼の神の信徒から聞き出すことができた。神道でいうところの祝詞のような役割を果たす言葉のようだった。

（中略）

異教の神の力は強かったが、祝詞をささげる間は不動明王尊の倶利伽羅剣の加護により多くの人々が守られた。

（立山反魂譚 プレイヤー資料4「『地獄谷歎異抄・下』」）

足元が氷に変わっている。その氷が轟音を立てて崩れあなたは極寒の水中へと落ちていく。そのずっと深くから、あなたの大切な、しかし亡くなった人の声がする。下を見ると、白い塊から生えた何本もの手があなたを手招きしている。

頭の上から声がする。見上げれば高い杉の木の上にあなたの大切な、しかし亡くなった人があなたを呼んでいる。あなたが木に駆け寄り、登ろうとすると、手に痛み

が走る。幹から鋭い刃が自分の手から心臓までを貫く。
倒れ込んだあなたを冷たい手が包み込む。

これらはサイサロスからの干渉によって、立山にあるとされる地獄で自らが死ぬ瞬間を目撃する幻覚である。幻覚はすぐに覚めるが、この先に神格が待ち受けていることを探索者に印象付ける演出として使用できる。

Tateyama
10. 立山へ

立山へ行くには、通常の登山道を使用する方法と、地獄谷につながる門を利用する方法がある。門を利用する場合、「**11. クライマックス：地獄谷**」へ進むこと。

以下は、登山道を使用した場合のルートである。

雄山神社で地図を手に入れている場合、登山する際に技能ロールは不要だが、地図がない場合、〈ナビゲート〉か〈目星〉ロールに失敗した探索者は道に迷い、体力を消耗して一度下山を余儀なくされる。

みくりが池・血の池

みくりが池までたどり着いた探索者は、あたりは霧に包まれているが、かなり透明度の高い池が目の前に広がっていることがわかる。

ここで、探索者が〈目星〉ロールに成功すれば、みくりが池の対岸に何かが落ちているのに気がつく。もし探索者が説話のことから、池を探すという宣言があればロールは不要だ。対岸まで行って見れば、それは一本の剣だ。〈歴史〉ロールに成功すれば、装飾から倶利伽羅剣、不動明王が片手に持っている剣であることがわかる。

また、そのすぐそばの茂みの下から、人間の腕がぐったりと伸びている。茂みの中には意識不明の鷹野雄一がいる。

鷹野は呼びかける、肩を揺さぶるなどの行為で意識を取り戻すが、サイサロスの催眠下にあり、茫然自失としている。探索者が〈精神分析〉ロールに成功すれば、自分の身に起こった神からの干渉を自覚した鷹野は1D10／1D100正気度ポイントを失う。

鷹野は、反魂丹をのませれば正気に戻る。鷹野は「過去の死亡事故と地獄谷のいわれ、そして娘の様子から網谷商事が地獄谷で何かをしているのがわかったため、不動明王の加護を借り、様子を見に行こうとした」と話す。

Jigokudani
11. クライマックス：地獄谷

地獄谷に向かうにつれ、霧はさらに濃くなり、卵の腐ったような硫黄の臭いが強くなってくる。INTロールに成功すれば、火山性ガスの臭いであり、吸い込みすぎると意識を失うかもしれないとわかる。

地獄谷の入り口付近まで来ると、ガスを噴出している硫黄の塔や沸き立つ池など、まさに地獄を想像させる光景が見えてくる。探索者たちは、この谷の光景は、滑川の港で見た幻覚に似ていることを思い出す。

〈目星〉ロールに成功すると、霧の向こう側にうっすらと祠（ほこら）のような形の影と、その前に何か袋のようなものが積み上がっている様子が見えることがわかる。

探索者が地獄谷の奥へ足を踏み入れると、周囲の霧が渦巻き始める。キーパーは適宜以下の描写を行なうこと。

濃い霧に包まれ、自分の手も見えないほどに視界が真っ白になっていく。そんな中、なぜかはっきりとした輪郭が霧の向こう側から伸びてくる。巨大な手だ。無秩序な形をした白い塊から伸びてくるその手はゆっくりと手招きをしながら探索者へ近づいてくる。探索者はその手に見覚えがある。不思議と恐怖が薄れていくようだ。

自分を呼ぶ神格サイサロスの姿を目にした探索者は1D6／1D20正気度ポイントを喪失する。滑川の港で幻覚を見て発狂した探索者がいれば、サイサロスに深く魅入られているため、追加の正気度喪失はない。

サイサロスとの戦闘

探索者がサイサロスを視認すると、サイサロスとの戦闘が始まる。サイサロスは、退散の呪文に成功するか祠の中の彫像を倶利伽羅剣で破壊すれば地獄谷から去る。

また、戦闘開始から1ラウンドが経過すると、地獄谷の異変を嗅ぎつけた西東尊が「門」をくぐって祠のそばから登場する。「神よ、永劫にして安寧の死を平等にお与えくださる神よ！」などとサイサロスを崇拝する言葉を叫びながら、退

散を試みる探索者を妨害するだろう。西東は不動明王尊の剣を所持している探索者を狙う。

「永劫の死」サイサロス
STR 400　CON 400　SIZ 800　DEX 60
POW 150　耐久力 120
ビルド：15　**移動：**9　**MP：**80

1ラウンドの攻撃回数：1回（タッチ）
祝福の手：攻撃対象がハードのPOWロールに失敗した場合、1D8正気度ポイントを失う。このときレギュラーのPOWロールにも失敗したなら、即死。

祝福の手　100%（50／33）、上記参照

攻撃対象：倶利伽羅剣を所持する者を除く、地獄谷にいる生物すべて。

なお、網谷商事の売薬のおまけを所持している場合はPOWロールにペナルティー・ダイス1つが与えられる。
サイサロスの攻撃を防ぐには、以下の手段が有効だ。

■ **反魂丹を服用する：**各探索者は、サイサロスの攻撃時に行なうPOWロールに失敗した際、一度だけ反魂丹を服用することで死の淵から戻って来ることができる。

■ **不動明王尊の剣を携える：**不動明王尊の剣を所持している探索者は、サイサロスの攻撃対象とならない。巨大な手は、多くの人間に信仰されている不動明王の力にまだ及ばないのだ。

探索者が祠の彫像の破壊を試みるなら、倶利伽羅剣で効果的なダメージを与えることができる。そのほかのいかなる武器も、与える最終ダメージは5分の1に減少する。彫像の耐久力は10とし、破壊されるとサイサロスは即座に退散する。
探索者がサイサロスを退ければ、サイサロスは霧ごと彫像に向かって逆流していき、時空のはざまへと消えていく。地獄谷はすっかり晴れていくだろう。

戦闘終了後

サイサロスを退けて生存した探索者のうち、反魂丹を服用していない探索者は、霧が晴れたのちしばらく半催眠状態が続く。佳代のようにしばしば山を拝み、最早いなくなった神の影を追いかけることとなるが、反魂丹をしばらく服用することで回復は可能だ。

The Conclusion
12. 結末

サイサロスを退けた探索者たちが下山するとき、布橋を渡る手前で軽く背中をたたかれる感覚がする。振り向くと、鷹野美智子と阿弥陀如来が橋の向こう側に並んで立ち、ほほ笑んでいた。しかし、その光景はすぐに溶けるように消えて見えなくなってしまう。
探索者たちはあの世から帰ってくることができたのだ。
西東の死亡もしくは逮捕、あるいは彫像の破壊のいずれかを達成した場合、カルトは再起不能となりまもなく網谷商事は倒産してしまう。新聞記者の探索者がいれば、米騒動以外の特報を手に入れることになるかもしれない。

報酬

サイサロスを退けた探索者は1D10正気度ポイントを獲得する。また、鷹野雄一が生存していた場合は、追加で＋1D3正気度ポイントを獲得する。さらに、カルトの活動を止めた場合、追加で＋1D3正気度ポイントを獲得する。

参考文献

玉川しんめい著『反魂丹の文化史 越中富山の薬売り』晶文社、1979
福江充著『立山曼荼羅 絵解きと信仰の世界』法藏館、2005

富山湾
滑川町（なめりかわまち）⑥
⑤水橋
富山市 ① ② ③
五百石町（ごひゃっこくまち）④
芦峅寺（あしくらじ）⑦
立山連峰 ⑧

富山県地図

① 呉東日報（ごとうにっぽう）
② 網谷商事（あみやしょうじ）
③ 図書館
④ 鷹野の実家
⑤ 水橋の倉庫
⑥ 滑川の倉庫
⑦ 雄山神社・布橋
⑧ 室堂平（むろどうだいら）

（立山反魂譚マップ）